



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月2日

上場会社名 ジーエルサイエンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7705 URL https://www.gls.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 長見 善博
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 芹澤 修 (TEL) 03-5323-6633
 四半期報告書提出予定日 2021年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	15,075	14.1	2,150	23.9	2,171	16.7	1,113	8.4
2021年3月期第2四半期	13,210	12.5	1,735	44.6	1,859	49.7	1,026	54.1

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 1,867百万円(57.9%) 2021年3月期第2四半期 1,182百万円(69.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	108.50	—
2021年3月期第2四半期	100.05	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	39,559	29,116	62.9
2021年3月期	38,683	27,756	61.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 24,886百万円 2021年3月期 23,886百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	35.00	35.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 2021年3月期期末配当金の内訳 普通配当 35円00銭 特別配当 5円00銭

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,120	9.9	4,470	16.2	4,500	14.9	2,770	22.7	269.99

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	11,190,000株	2021年3月期	11,190,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	930,181株	2021年3月期	930,159株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	10,259,822株	2021年3月期2Q	10,259,868株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等へのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、一部地域において再度の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され経済活動が制約されるなど、厳しい状況が継続いたしました。世界経済は、ワクチン接種の進捗状況により各国における経済活動の制限緩和や経済対策による需要の回復に地域差があり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済環境下におきまして、当社グループは、新型コロナウイルス感染症対策として、取引先に対してはオンライン商談やウェビナーを活用した営業活動を可能な範囲で行っており、従業員に対しては時差出勤・在宅勤務・出張制限等の対策を実施しております。

また、今期からスタートした中期経営計画(3ヵ年)の初年度として、分析機器事業は「挑戦」のスローガンのもとクロマトグラフィー事業の持続的拡大、経営基盤の強化等に取り組んでおります。また、半導体事業は石英ガラス・シリコン加工における世界有数の「半導体関連精密パーツ総合メーカー」としての地位確立を目指して生産能力増強や営業力強化等に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、15,075百万円(前年同期比 14.1%増)となりました。損益につきましては、営業利益 2,150百万円(前年同期比 23.9%増)、経常利益 2,171百万円(前年同期比 16.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,113百万円(前年同期比 8.4%増)となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等の適用により、売上高は330百万円減少しております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(分析機器事業)

分析機器事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で営業活動が制限される中、売上高は前年同期を上回ることが出来ました。

国内では、消耗品が化学工業、機械工業をはじめ、医薬、食品、環境、半導体、ライフサイエンス等、多くの分野で増収になりました。特に液体クロマトグラフ関連製品をはじめ、ガスクロマトグラフ関連製品、無機関連製品など幅広い製品が好調でした。装置は水質関連製品、液体クロマトグラフ関連製品、前処理関連製品が好調で増収となりました。

海外では、インド、欧州、北米などの地域で、製薬メーカーを中心に液体クロマトグラフ用カラムが好調に推移しましたが、OEM製品のマイナスで消耗品は減収になりました。また、装置は前年同期に比べて大型装置の納入が減少したため減収となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 6,866百万円(前年同期比 6.4%増)、営業利益は 572百万円(前年同期比 18.2%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は325百万円減少しております。

(半導体事業)

半導体業界におきましては、5GやAI、IoT、自動運転等の需要がますます高まるなかで、半導体の供給不足による自動車減産の影響が関連業種へ波及し、生産のタイト感が強まってきております。こうした需給状況は当分続くものと思われ、各メーカーの投資意欲も継続しており、半導体市場は今後を着実に拡大していくものと見込まれます。

このような環境の中、当事業では、これまでに蓄えた豊富な受注残高と、工場の高稼働に伴う量産効果を背景に、売上高、利益ともに計画を大幅に上回ることが出来ました。また、受注残高につきましては、2019年秋頃から拡大傾向に転じた後、コロナ禍においても拡大を続け、足元では過去最高レベルの水準で推移している状況です。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 7,572百万円(前年同期比 22.7%増)、営業利益は 1,544百万円(前年同期比 21.1%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は5百万円減少しております。

(自動認識事業)

自動認識事業におきましては、昨今の調達部品の長納期化影響が続いていることにより新規製造においては苦慮しております。しかしながら前期に調達部品の長納期化を懸念し、見越し製造で準備を進めていたため、売れ筋製品のうち特に「モジュール」の販売が伸びました。その結果、売上高は前年同期比で増収となりました。

製品分類毎の売上高は「モジュール」、「完成系」、「ソリューション」が前年同期を上回り、「タグカード」は電子部品の長納期化影響により製造が先送りになったため前年同期を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 636百万円(前年同期比 8.8%増)、営業利益は 29百万円(前年同期は営業損失 19百万円)となりました

(2) 財政状態に関する説明

(資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は受取手形及び売掛金の減少や仕掛品の増加などにより 22,495百万円(前連結会計年度末に比べ 478百万円の減少)となりました。固定資産は有形固定資産その他の増加などにより 17,064百万円(前連結会計年度末に比べ 1,354百万円の増加)となりました。その結果、資産合計では 39,559百万円(前連結会計年度末に比べ 876百万円の増加)となりました。

(負債の状況)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は短期借入金や未払法人税等の減少などにより 7,479百万円(前連結会計年度末に比べ 326百万円の減少)となりました。固定負債は長期借入金の減少などにより 2,963百万円(前連結会計年度末に比べ 157百万円の減少)となりました。その結果、負債合計では 10,442百万円(前連結会計年度末に比べ 484百万円の減少)となりました。

(純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は利益剰余金の増加などにより 29,116百万円(前連結会計年度末に比べ 1,360百万円の増加)となりました。自己資本比率は 62.9%となりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,358,392	6,411,748
受取手形及び売掛金	9,224,364	8,301,343
商品及び製品	2,076,309	2,063,550
仕掛品	2,419,250	2,778,647
原材料及び貯蔵品	2,562,412	2,657,117
その他	359,275	289,025
貸倒引当金	△26,544	△6,139
流動資産合計	22,973,460	22,495,293
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,508,892	5,429,070
土地	4,159,745	4,159,780
その他（純額）	3,036,084	4,073,343
有形固定資産合計	12,704,721	13,662,194
無形固定資産		
483,742	483,742	483,843
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	425,583	433,728
その他	2,097,619	2,486,036
貸倒引当金	△1,873	△1,772
投資その他の資産合計	2,521,329	2,917,991
固定資産合計	15,709,794	17,064,029
資産合計	38,683,254	39,559,323

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,323,825	3,332,106
短期借入金	2,131,624	1,974,718
未払法人税等	780,029	611,356
賞与引当金	610,897	643,846
その他	959,140	917,038
流動負債合計	7,805,517	7,479,065
固定負債		
長期借入金	2,431,599	2,150,165
役員退職慰労引当金	81,085	93,350
退職給付に係る負債	133,066	148,541
その他	475,572	571,716
固定負債合計	3,121,322	2,963,773
負債合計	10,926,839	10,442,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,207,795	1,207,795
資本剰余金	1,815,763	1,815,761
利益剰余金	20,704,699	21,407,471
自己株式	△509,450	△509,507
株主資本合計	23,218,807	23,921,520
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	397,726	535,460
繰延ヘッジ損益	938	663
土地再評価差額金	△312,234	△312,234
為替換算調整勘定	223,959	450,310
退職給付に係る調整累計額	357,042	291,057
その他の包括利益累計額合計	667,433	965,258
非支配株主持分	3,870,174	4,229,704
純資産合計	27,756,414	29,116,483
負債純資産合計	38,683,254	39,559,323

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	13,210,964	15,075,689
売上原価	8,613,571	9,862,960
売上総利益	4,597,393	5,212,729
販売費及び一般管理費	2,861,779	3,061,801
営業利益	1,735,614	2,150,928
営業外収益		
受取配当金	14,719	18,739
不動産賃貸料	—	53,411
補助金収入	124,482	300
その他	30,607	29,627
営業外収益合計	169,808	102,078
営業外費用		
支払利息	11,163	16,403
為替差損	1,208	27,908
不動産賃貸原価	—	34,740
租税公課	18,500	—
その他	14,588	2,861
営業外費用合計	45,461	81,914
経常利益	1,859,961	2,171,091
特別利益		
投資有価証券売却益	88,768	0
固定資産売却益	—	100
特別利益合計	88,768	100
特別損失		
固定資産売却損	103	—
固定資産除却損	7,941	12,530
投資有価証券評価損	—	3,863
特別損失合計	8,044	16,393
税金等調整前四半期純利益	1,940,684	2,154,798
法人税、住民税及び事業税	632,949	624,445
法人税等調整額	△17,435	67,626
法人税等合計	615,513	692,072
四半期純利益	1,325,170	1,462,726
非支配株主に帰属する四半期純利益	298,622	349,560
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,026,548	1,113,165

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	1,325,170	1,462,726
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19,985	135,180
繰延ヘッジ損益	△1,763	△275
為替換算調整勘定	△96,484	335,480
退職給付に係る調整額	△24,205	△65,984
その他の包括利益合計	△142,439	404,401
四半期包括利益	1,182,731	1,867,127
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	918,298	1,410,991
非支配株主に係る四半期包括利益	264,432	456,136

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。